

## 一枚の写真

信樂 慧



おり、それほど自信作なのかととても興味深いので次回リベンジしたいと思います。

「18品の朝ごはん」



この写真は、先日築地本願寺に行つた際のものです。築地本願寺では、「Tsumugi」というカフェが「18品の朝ごはん」というメニューを提供しており、これを食べに行きました。しかし、大人気で売り切れおり、結局食べれませんでした。この「18品の朝ごはん」は四十八願の「第18願（本願）」に由来して

おり、それほど自信作のかととても興味深いので次回リベンジしたいと思います。

「18品の朝ごはん」は食べれませんでしたが、カフェに並んでいる時に周りを見渡すと「18品の朝ごはん」を食べるためには仏教を全く知らない若い方も多く並んでおり、こうした取り組みで仏教を知らない人でも仏教との接点を持つことが出来るのがとても重要であると感じました。仏教には、「月を指す指」という言葉があります。指とは言葉、文字のことを表しておらず、言葉に囚われずその先に示す月という「本質」を見るべきものだと教えています。だからこそ、一般の方も興味が持てるよう、「縁をつなぎ、理解がしやすい形で本質を伝える努力をしない」とけいなっています。

その方は、足が動かなくなり車椅子での生活がでできませんでした。この「18品の朝ごはん」は、四十八願の「第18願（本願）」に由来して

だ」とおっしゃるそうです。なぜそう思ふのか聞くと、「今、自分は車椅子生活になり、思うようにならないこともあるけど、こんなだから息子が車椅子を押してくれる。その時間がとても幸せで、足は動かないけれど、全然不幸じゃない」とおっしゃったそうです。本当に素晴らしいお話を聞かせていただきました。これこそが、仏教の教えてによって見えてくる世界だと私は、思います。

仏教は、お釈迦様が生老病死の苦しみを越え、智慧をえて煩惱をなくすことで穏やかに生きられると悟られました。つまり、仏教で幸せになるとは、何かを得て欲を満たすのではなく、現在の状況を完全に受け入れることで満たされることだと思います。起こった事に何を言つても何を考へても状況は変わらない。今の状況を受け入れて、その中で前進していく、しかないのですが。口で言うことは簡単ですが、自分もこの方と同じ状況になつたときに、同じことを言えるとは思えません。しかし、少しでもそう思える人間に成長するために、今年もより一層色々なご縁を大切にして生きようと思ひます。

## 安樂寺法要案内

## --彼岸会法要--

日時 3月25日(土)  
朝座・昼座  
講師 法眼寺  
黒田順真先生  
講題 “人生は苦なり”的向こう

## --宗祖降誕会--

日時 5月13日(土)  
朝座・昼座  
講師 朝座自勤  
昼座 大竹大龍寺  
二階堂和美先生  
講題 親鸞聖人生誕850年  
を迎えて(仮)

※日程が法座カレンダーから変わっています。20日が13日になっていますのでお気をつけ下さい。

## --永代経法要--

日時 6月24日(土) 昼座  
6月25日(日)  
朝座・昼座  
講師 川尻真光寺  
寺西龍象先生  
講題 遠く宿縁を慶べ

時間 朝座10:00~・昼座13:00~  
会場 安樂寺本堂

※新型コロナウィルスが感染拡大した場合、急遽中止する場合があります。

編集後記  
今号は、本質について触れているお話が多くあります。本質とは、「最も大事な根本の性質・要素」ということをさしており、言葉でいうのは簡単ですが、物事の本質がわかるということはそれだけ自分がそのことに對して向き合っているかが大事だと思います。それこそ本願も、仏教の本質であります。仏様に本願がわかったわけではありません。本質を理解するためには何事にも真正面から向き合つていいことは大切だなと考えさせられました。

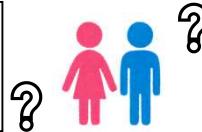
## 安樂寺マンガ通信

その56 信楽めぐみ作

この言葉は、性的少数组派の総称をさしてあります。思ひながら、そういう方に對しては知つていて理解が深くないのか一度考えてみよいのか

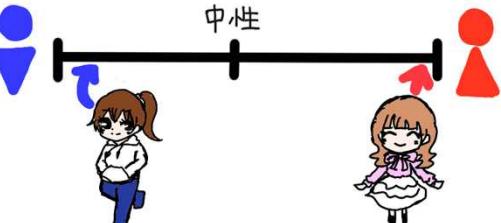
か? ついでに、性とお話しをするときは、性と聞いてお聞きませんか? 性と聞いてお聞きませんか? 性と聞いてお聞きませんか? 性と聞いてお聞きませんか?

構成要素は、性の要素です。



その要素とは、「体の性」「心の性」「好きになる性」「表現する性」の4つです。これらの要素すべてに男性、女性のバロメーターがあり、人それぞれ違つて性は多様だと言われています。

## 例 『表現する性』のバロメーター



※バロメーター：状態・程度を推し量る基準・指標のこと

一番わかりやすい「表現する性、言葉遣いや服装や振る舞いに関する性」を例に挙げて説明します。

例えば、体や心の性が女性の方でも、男性っぽい服が好きな事があつたりしませんか?

逆に体や心の性が同じ女性の方でも、すっごく可愛らしい服が好きな方がいたりしませんか?

そう考へてみると、他の構成要素も本当にきつぱり分かれているものでしょ? 理解が得られないことの中には、思い込みや偏見が含まれていることがあります。



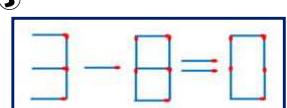
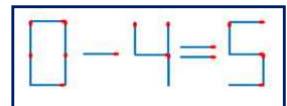
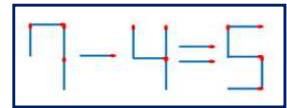
脱ぎながら成る、なりながら脱いでいく。この脱皮と成長、成長と脱皮を限りなく続けていくのです。それは先ほど申したタテ軸とヨコ軸がクロスする地点に、どれだけ近く立ちうるかということでもあります。現實の私たちとは、なかなかそこに至りません。思うように脱皮も成長もできませんが、それをめざして、懸命に一人ひとりが教えを学び、ダルマを学びながら、常にきびしく自己自身を問い続けて生きていく。これが仏教が目指すところの基本の目標だと申してよいと思います。

仏教は、そういう人間の現実の生きざまを問い、また人の生き方を教えるわけであります。そのことから、一人ひとりの人格主体を変革していく、そういう一人ひとりの人格主体を成長させていくということであります。それは別の言葉で言うならば、そうは成つていいなりますが、仏法を学びながら、少しずつ成つていく自己を問い合わせながら少しづつ育っていく、このことが仏教の基本的性格であります。

だから仏教は、一般的の宗教が、まず絶対者としての神の存在を語つて、そういう絶対者を是認し、その絶対者の神と、私との関係の中で、人間の生きざまを教えるものとは違います。仏教は、そういう人間と絶対者との二元論的な発想に立つものではありません。仏教とは、この宇宙、世界を貫くところの普遍の原理、ダルマを学びながら、それにもとづいて、私自身の存在を問いつつ、私自身の理想的なありようを徹底して尋ねていく、そしょのうに成つていく、育つていく。このことがゴーブッダの教えであります。

# マッチ棒クイズ

マッチを1本動かして、  
計算式を正しくしてね！



$$\begin{array}{l} 39-9=0 \quad (8\text{자}3\text{자}9\text{자}0\text{은}) \\ 29-4=5 \quad (0\text{자}9\text{자}0\text{은}) \\ 17-4=3 \quad (5\text{자}3\text{자}0\text{은}) \end{array}$$

# お念佛のしづく



## 暮らしの中の仏教語

「大事（いちだいじ）」

〔一瞬 天下の「大事」などというと 天下の「意図」を 大久保彦左衛門でも登場しそうな情景です。」  
「我が社の「大事」「大事の前の小事」など日常でも使われる言葉

『法華經』に「諸仏世尊は、唯一大事の因縁をもつての故に、世に出現したもう」という文があります。お釈迦様は、ただ一つの偉大な目的と仕事のために、この世に現れたといいます。その目的と仕事とは、佛の智慧を、凡夫に教え(開)、示し(示)、理解させ(悟)、その道に入らしめる(入)事である、と説いています。つまり、仏がこの世に現れたのは、衆生を救済するためだけだというのです。これが「大事」です。

『真宗新辞典』によると仏の「大事」とは、「釈迦がこの世に出現された目的は、愚鈍の凡夫を救うため、弥陀の本願を説きあらわすこと」であり、衆生の「大事」とは、「弥陀に救われて浄土に往生すること」と説明しています。

淨土真宗では、「後生の「大事」と言う言葉を使います。後生とは今生、現生に対する言葉です。今この私の命が、これからどうなつっていくのか、そのことをじっかり聴聞すべきだと、お示し下さいます。仏の「大事」は衆生の「大事」です。さてわたしにとっての「大事」とは、どんなことでしようか。

浄土真宗のお葬式

信樂晃仁

一月二十二日、朝日新聞に「葬式 私はこう考え  
る」という見出しで、特集が組まれていました。  
「葬式は、親しかった人や家族が集まって故人を弔  
い、永遠の別れを告げる儀式です。(乃至家族をど

う見送るか。自分はどう見送って欲しいか。誰もが経験せざるを得ない人生的イベントについて考えます」と。そしてその後には読者から寄せられた葬儀無用論から葬儀必要論まで、色々な意見が掲載されました。私たちがどうしても関わることになるのではないかと思いました。特に今年一月には悲しいお葬式が続きました。この悲しみの中で、葬儀をどう考えるか、私たちは問われるのだと思います。

葬儀の意味を調べてみると、葬儀の役割について次の六つがあげられます。

①社会的な処理…故人が亡くなつた事実を関係者に知らせる役割。

②遺体の処理…遺体の保冷処置、最終的には火葬して遺骨とする。

③靈の処理…宗教的に故人の靈を見送る。

④悲嘆の処理…遺族の悲しみを和らげる効果がある

⑤感情の処理…人が死ぬと、残された人たちの心がざわつきます。儀式を通してそれを緩和する効果がある。

⑥教育的役割…大切な人の死から学ぶこと。

私たちが葬儀をすること、このように六つのことがなされないわけです。その上で、浄土真宗の葬儀はどのような意味で読経し作法が行われているかというと、「葬儀規範解説」に「浄土真宗における葬送儀礼」というのは、本願を信じ念仏するものとして、故人も後に遭されたものも、阿弥陀仏に等しく摂め取られていることに対する「報恩感謝」の思いをめぐらせる場となるものであり、また人生の拠り所を阿弥陀仏の净土に見据えて歩ませていただくという「法縁」にあらう場となるものです。」と書かれています。つまり浄土真宗の葬儀は、阿弥陀仏の働きにより故人も救われ仏となられた方と、また私たちも仏になる身と知らせて頂く、そうした阿弥陀仏の働きに対する、報恩感謝の儀式だと言うことです。その時に忘れてはならないのが、「本願を信じ念仏をするものとして」との言葉です。私たちは、お育てにより「本願を信じ念仏をするもの」として日々の勤行、ご法事や、仏事をお勤めします。やはり生前「本願を信じ念仏するもの」の葬儀は安心です。みんながそうであれば、浄土真宗にお



いては「靈の処理」ではなく、仏様の働きであり、阿弥陀仏による教育的役割だといえます。先般お父さんを亡くされた四〇代の男性が、「あれから毎朝、仏壇にお参りしています。こうしていますが間違いないでしようか。」と満陰でお聞き下さいました。有り難いことに阿弥陀仏の教育的役割が届いています。

他宗や一般の葬儀では、読経を亡くなつた故人の為の追善供養となり、引導を渡して、この世への執着を絶ち、成仏を願つたりして、靈の処理を行う僧侶や、それを願う遺族もいます。しかし浄土真宗は既に阿弥陀仏の救いの中であることを、故人も遺族も会葬者も確認させていたいのです。今生の別れは悲しく、寂しいかも知れません。しかし儀式を勤める中で、阿弥陀仏に救われること必ず仏になること。そして同じ浄土でまた会うことができることを私たちは教えてくれているのです。そのような意識で、葬儀が大切にお勤めできればと思います。悲しみや寂しさの中にも必ず安心感が生れるはず